令和８年度　授業改善推進プラン　　４年　　小平市立小平第十一小学校

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①　漢字や語句など基礎的な学力の定着と言語活動の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　単元テストの結果では、知識・技能の正答率が約 77%、思考・判断・表現の正答率が約 78%となっている。知識・技能においては、漢字や言葉の使い方についての力の定着を図る必要がある。また、思考・判断・表現においては、問題文をきちんと読み取って、必要な情報を読み取る力、問題にあった答え方をする力を高めていく必要がある。	①　分からない語句や漢字があった際に自分で調べる習慣を身に付けるため、言葉の意味や使い方について授業の中で適宜触れていくとともに、言葉の意味を調べる時間を確保すること、デジタルの活用などを通じて、語彙力の向上を図る。また、自分の考えをまとめるための時間を確保して、考えをもてるようにしたり、小グループでの話合いや意見交流など、話合い活動の場面を授業に取り入れ、意見を伝えたり他人の意見に触れたりする機会を設ける。単元ごとの確認テストで正答率 80%を目指す。
	②　日常的に学習者用端末を活用する授業の推進 【ICT 機器の活用】	②　ノートへの書字活動に抵抗感を示す児童が、一人一台端末での書字活動に対し、意欲的に取り組む傾向がある。また、どのように表現すればよいのか分からない児童が、一人一台端末の共有機能を使って友達の考えを見ることで自分の考えをまとめることができたり、友達の考えを受けて自分の考えを修正したりする姿が見られる。	②　児童の書くことや授業に参加することへの苦手意識を低減するため、ノートと一人一台端末の使用頻度のバランスは教師側が意識しながら、児童が活用できる環境を整えていく。考えを共有する時間、場を確保することで、児童が安心して自分の考えをまとめたり表現したりできるようにしていく。
社会	①　問題解決的な単元構成を意識した授業展開の推進 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　1 学期のテスト結果から、学年平均の正答率が知識・技能は 79%、思考力・判断力・表現力等は 77%である。学習を基に考えたことを表現する場面では、文章で記述したり、説明したりする経験が必要である。	①　「つかむ」→「調べる」→「まとめる」→「つなぐ」という単元構成を意識させ、児童が主体的に学習課題をもって調べられるようにする。特に、導入では、児童の興味関心を高められるような資料提示を工夫し、自身の考えをもつ、伝え合う、深める、次への課題をもつ活動をくり返し行い、意欲的に参加できる授業づくりを行っていく。
	②　ICT 機器を活用した資料提示や振り返り活動の推進 【ICT 機器の活用】	②　教科書では、どこを見たらよいか分からない児童がいるが、一人一台端末で視点を絞って資料配布することで意欲的に資料を見る児童が増える傾向にある。また、資料の気付きなどを共有することで自分の考えをもてたり、まとめの活動に意欲がもてたりする児童がいる。	②　資料提示や資料の読み取り場面では、積極的に一人一台端末を使用する。ノートと一人一台端末の使用タイミングを教師側が意識しつつ、導入での資料提示や振り返り・まとめの活動などにおいて、個々の児童の希望に合わせて活用させるようにする。
算数	①　算数の基礎的・基本的な学習内容の定着 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　東京ベーシック・ドリル算数３年診断シート A において、平均正答率は 4 月に 61%、 6 月実施で 62%となっている。少人数の指導を活用し、児童の苦手分野には個別の指導も行っている。	①　指導法工夫改善授業加配教員を活用した習熟度別指導を継続し、習熟度の低い児童の少人数グループを中心とした指導において、単元の学習に関わる前年度までの学習内容を振り返る時間を確保する。診断シート B および C の実施で、学年の平均正答率 7 割以上を目指す。
	②　ICT 機器を用いた学習活動の充実 【ICT 機器の活用】	②　授業の終末の振り返りや児童がもった考えや問題の解き方を学習支援アプリに記録したり、課題が早く終わった児童にデジタルドリルでの学習を進めたりと学習の定着を図っている。	②　一人一台端末を活用し問題把握の場面や図形・数直線などのデータを提示し手元で視覚的に確認させる。また考えを共有することで友達の意見を参考に解決に向かえるように活用していく。
理科	①　問題解決の過程を通して、理科的な資質・能力の習得 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】	①　１学期の児童の様子からは、実験に意欲的に取り組む姿が多くいる。予想や考察を自分なりに表現しようとする児童が多いが、一方で、自分の言葉で表現することが難しい児童もまだ散見される。数名の児童が発言を繰り返す場面もある。	①　今後も実験などの予想・話合いの場面で友達の考えに触れたり、意見交換をしたりする活動を取り入れ、自分の考えを深められるようにする。また、一斉指導時に自己の考えを具体的な言葉を使用し書いた児童を意図的に指名し、表現のよさを価値付ける。単元ごとの確認テストで定着 80%を目指す。
	②　ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実 【ICT 機器の活用】	②　学習支援アプリを効果的に活用している児童が多い。夜空の星の動き方の確認や春と夏の校庭の様子の違い、雨の日の水たまりの様子の記録など課題の把握や、結果の記録に活用している。	②　一人一台端末の各種アプリをさらに活用し、自分の考えを言葉やその他の方法によって表現されたものを共有したり対話したりする場面を設け、多様な考え方を結び付けられるようにする。振り返りにも端末を活用していく。

音楽	① 学ぶ楽しさを実感させる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用 【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が主体的に授業へ参加しており、グループでの歌唱やアンサンブルの活動に意欲的に取り組んでいる。 ② 自分の旋律だけでなく、相手の旋律や伴奏を聴いて表現することや、音楽のよさを言葉で表現することに課題がある。特に器楽の技能の習熟に関して、引き続き一人一人の学習過程に応じた支援を充実させることで、すすんで学習する意欲を維持させるようにする。	① 共通事項をもとに指導内容を焦点化し、常時活動や、体を動かす活動を通して経験させ、友達と関わり合って表現することで、主体的に活動できるようにする。 ② ICT 機器を活用して、自分に合ったパートや楽譜を選択できるようにして、スモールステップで学習に取り組むことができるようにする。また、鑑賞で気付いたことや感じ取ったことを伝える手段は、音楽の共通語を増やしながら、絵や色、図形楽譜などを認め、ワークシートでも端末でも、児童の得意な方法で表現できるようにする。
図画工作	① 学ぶ楽しさを実感させる授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】	① 児童アンケートでは、「図工が楽しい」、「頑張れた」という振り返りを書いている児童が多い。児童が主体的に授業へ参加している。 ② 制作活動中や制作作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、児童同士の効果的な対話を促す工夫が必要である。	① 材料や用具、詩自体、表し方などを複数提示するなどをして、児童が自分の思いに合わせて自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりを行う。今後のアンケートでも「すすんで学習している」という質問項目に対して肯定的な回答今後も多くなるようにする。 ② 互いの作品を鑑賞したり、制作したりする活動では、どのような点に注目したり留意したりして関わり合うのかを提示し、対話するだけに留まらず、学びを深めていけるようにする。題材末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。
体育	① 運動を通して自分の課題を見付けられるようにする環境設定 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② 課題解決の方法を知ったり選んだりするための学習者用端末の活用 【ICT 機器の活用】	① 意欲的に学習へ取り組む様子が見られ、休み時間もほとんどの児童が進んで体を動かしている。一方で、運動に苦手意識がある児童が数名いるため、意欲を高める取り組みができるようにする。 ② 一人一台端末の活用は活動場所に応じて使用している。活動中に気付いたことやふりかえりなどで有効活用できるようにすることで、課題解決をさらに進めるとより良いと考えている。	① 知識や技能に関わらず運動に親しみやすい規則の設定、系統的・段階的に自分の力に合わせて選択できる技や活動の提示をすることで、課題を見付けられるようにする。 ② 一人一台端末を活用し、運動のポイントを映像や言葉でいつでも参照できるようにすることで、自分に合った課題解決の方法を選んだり試したりすることができるようにする。
外国語活動	① 学ぶ楽しさを実感させる、音声でのやり取り中心の授業の充実 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた言語外情報としての視覚教材の活用 【ICT 機器の活用】	① ほとんどの児童が主体的に授業へ参加している。 ② まだ英語を学び始めて間もない段階であるため、英語を聞いて理解する際に言語外情報がないと理解が難しいのが現状である。視覚的補助を用いることで児童の理解促進を図る必要がある。	① 互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、実際に自分のことを伝え、相手のことを知るという体験を繰り返し、音声で外国語のやり取りが成立するという達成感を味わえるようにする。 ② 児童の理解促進のための言語外情報の視覚教材として ICT 機器で絵や写真を提示し、活用する。また、動画教材を使うことで児童が集中して言語材料に慣れ親しみ続け、主体的に言語材料の意味内容を捉えて習得につなげられるようにする。
道徳	① ねらいとする内容項目に迫るための課題設定・発問の工夫。物事を多面的・多角的に考えるための授業展開の工夫。 【基礎的・基本的な学習の定着、主体的・対話的で深い学びのある授業】 ② ICT 機器を用いた教材理解、お互いの考えの違いに触れたり交流したりするための活用。 【ICT 機器の活用】	① 教材に出てくる登場人物の心情や状況を理解し、自分事として見つめ直したり、多面的・多角的に考えたりする必要がある。また、学習したことを生活の中で実践していく必要がある。 ② 学級ほとんどの児童が自分の考えや振り返りを書くことができる。自分とは異なる意見を受け入れるが難しい場面があるため、友達との交流によって自分の考えを広げたり違いを認め合ったりしていくことが必要である。	① 教材について児童が感じたことや考えたことをもとに多面的・多角的な考えを引き出すような発問を工夫する。また児童から出た多様な考えを分かりやすく整理し、発問を吟味することによって自己を深く見つめ、実践意欲を高めるようにする。 ② 導入で ICT 機器を活用して教材を提示し、教材への興味・関心を高め、本時の道徳的価値について自分事として考えられるようにする。また児童が入力した個々の考えを全体で共有したり、交流の際に使用したりすることで多様な考えに触れられるようにする。

評価の方法は、学校評価及び実施可能な教科は単元ごとのテスト等の正答率・到達率とする。